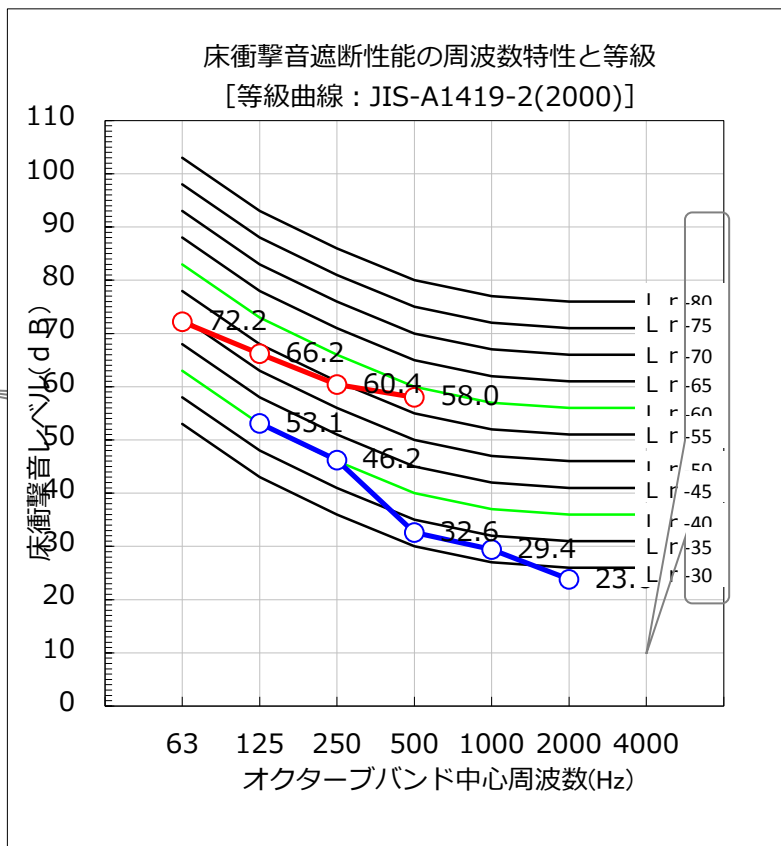




(解析データ例)

重量の評価はLr-60。  
500Hzでのこの差が2デシベル以内であれば、Lr-55に格上げとなる。  
軽量の評価はLr-40。  
125、250Hzでのこの差2デシベルを越えれば、Lr-45に格下げとなる。



● 参考資料

日本建築学会では、建物・室用途別の適用等級、遮音性能の表示尺度と住宅における生活実感との対応の例を表1及び表3のように定めています。また求めた適用等級は表2により意味づけられます。

表1 床衝撃音レベル差に関する建物、室用途別適用等級

建築物	室用途	部位	衝撃源	適用等級			
				特級	1級	2級	3級
集合住宅	居室	隣戸間界床	重量衝撃源	L-45	L-50	L-55	L-60、L-65※
			軽量衝撃源	L-40	L-45	L-55	L-60
ホテル	客室	客室間界床	重量衝撃源	L-45	L-50	L-55	L-60
			軽量衝撃源	L-40	L-45	L-50	L-55
学校	普通教室	教室間界床	重量衝撃源	L-50	L-55	L-60	L-65
			軽量衝撃源				

(注) ※木造、軽量鉄骨造またはこれに類する構造の集合住宅に適用する。

表2 適用等級の意味

適用等級	遮音性能の水準	性能水準の説明
特級	遮音性能上特にすぐれている	特別に高い性能が要求された場合の性能水準
1級	遮音性能上すぐれている	建築学会が推奨する好ましい性能水準
2級	遮音性能上標準的である	一般的な性能水準
3級	遮音性能上やや劣る	やむを得ない場合に許容される性能水準

表3 表示尺度と住宅における生活実感との対応の例

遮音等級	L-30	L-35	L-40	L-45	L-50	L-55	L-60	L-65	L-70	L-75	L-80	備考	
床衝撃音	人の走り回り、飛び跳ねなど	通常ではま ず聞えない	ほとんど聞 えない	かすかに聞 えるが、遠 くから聞え る感じ	聞えるが、 意識するこ とはあまり ない	小さく聞え る	聞える	よく聞える	発生音が なり気なる	うるさい	かなりうる さい	うるさくて 我慢できな い	低音域の 音、重量・ 柔衝撃源
	椅子の移動音、物の落下音など	聞えない	通常ではま ず聞えない	ほとんど聞 えない	小さく聞え る	聞える	発生音が気 になる	発生音が かなり	うるさい	かなりうる さい	大変うるさ い	うるさくて 我慢できな い	高音域の 音、軽量・ 硬衝撃源
	生活実態、プライバシーの確保	上階の気配 をまったく 感じない	上階の気配 を感じるこ とがある	上階で物音 がかすかに する程度・ 気配は感じ るが気には ならない	上階の生活 が多少意識 される状 態・スプー ンを落とす と、かすか に聞える・ 大きな動き はわかる	上階の生活 状況が意識 される・椅 子を引かず 音はきこ える・歩行 などがわか る	上階の生活 行為がある 程度わか る・椅子を 引かず音 はうるさく 感じる・ス リッパ歩行 音が聞える	上階住戸の 生活行為が わかる・ス リッパ歩行 音がよく聞 える	上階住戸の 生活行為が よくわかる	たいていの 落下音は はっきり聞 える・素足 でも聞える	生活行為が 大変よくわ かる・人の 位置がわか る・すべて の落下音が 気になる・ 大変うるさ い	同左	生活行為、 気配での例